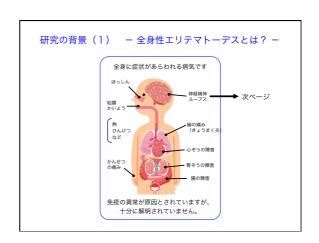
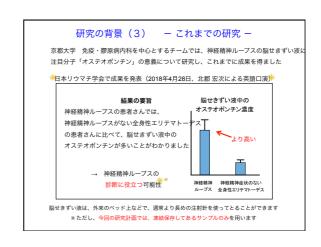
患者さんへの説明補助イラスト
ー脳せきずい液中のオステオポンチン
に関する疾患比較研究ー

京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科
北郡 宏次、吉藤 元
京都大学医学部附属病院 脳神経内科
綾木 孝、葛谷 聡



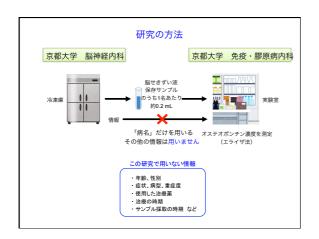


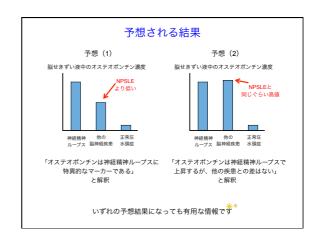
研究の背景(4) - 今回研究の根拠 
これまでの研究成果 →神経精神ループスでは、脳せきずい液中の
オステオポンチンが多いことがわかった

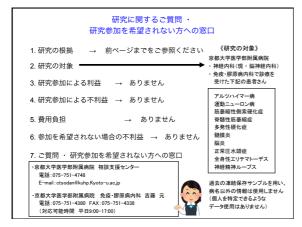
日本リウマチ学会
参加者から質問・指摘あり
次の課題

脳せきずい液中のオステオポンチン
→ 神経精神ループス以外の脳神経の病気でも多いのか?
つまり、神経精神ループスに限ったことであるか?

研究の目的 脳せきずい液中のオステオポンチン → 神経精神ループス以外の脳神経の病気でも多いのか? ▲検討するため 1) 下記の脳神経の病気の脳せきずい液中のオステオポンチン濃度を測定 2) 神経精神ループスと比較 アルツハイマー病 運動ニューロン病 筋萎縮性側索硬化症(きんいしゅくせいそくさくこうかしょう) 凍結保存 サンプル のうち、 この研究の 脊髄性筋萎縮症(せきずいせいきんいしゅくしょう) 対象疾患 多発性硬化症(たはつせいこうかしょう) のっち、 1名あたり 約0.2 mL を用います 髄膜炎(ずいまくえん) 脳炎(のうえん) 正常圧水頭症(せいじょうあつすいとうしょう)







## データとサンプルの保存 研究期間: 2022年3月まで 研究データの保管 臨床情報 ・・・ 本研究では病名以外の情報を用いません オステオポンチン測定値 ・・・ もしも患者さんから研究不参加の意思表示があった場合は データを抹消いたします 研究サンプルの保管 本研究目的で用いた脳せきずい液0.2 mLのうち 再測定のために保存していた「あまり」は、 ① 研究期間終了時 ② もしも患者さんから研究不参加の意思表示があった場合に廃棄 します